

**Citation:** DorriM, NasserM, Oliver R. Resorbable versus titanium plates for facial fractures. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 1. Art. No.: CD007158. DOI: 10.1002/14651858.CD007158.pub2.

**CRG名:** Oral Health

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 21 January 2009

**Clib issue No.;** N/U: 2009 Issue 1; New

**背景:** 顎骨の強固な固定は顔面骨折の治療として、一般的な方法である。骨の固定には、これまでにチタンプレートやスクリューが使用されている。ただ、このシステムには限界があり、二次手術(プレート除去)の必要性をばく可能性のある生体吸収性材料から作られるプレートの開発が進められている。しかしながら、固定の安定性、材料吸収に必要な期間の長さ、異物反応の可能性に対する心配が残されている。

**目的:** 顔面骨折の治療として、チタンによる固定システムに対し、吸収性材料による固定システムの有効性について比較すること。

**検索戦略:** 本レビューでは下記データベースについて検索を行った。The Cochrane Oral Health Group's Trials Register(2008年8月20日まで)、Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(The Cochrane Library 2008, Issue 3)、MEDLINE(1950年から2008年8月20日まで)、EMBASE(1980年から2008年8月20日まで)、<http://www.clinicaltrials.gov/>および<http://www.controlled-trials.com/>(2008年8月20日まで)

**選択基準:** 顔面骨折に対して使用された、吸収性材料とチタンによる固定システムとの間でのランダム化比較試験

**データ収集と分析:** 検索された研究は2人のレビュー担当者によって独自にスクリーニングされた。連続的なアウトカムに対しては平均差を用い、また、二値アウトカムに対しては危険率を用いて、95%の信頼区間でランダム効果モデルとして結果を示した。異質性については、臨床的および方法論的な要因を含めて調査された。

**主な結果:** 検索により、適格基準に一致したのは53の研究であった。しかし、これら検索された研究の中で、我々の評価基準を満たしているものはひとつもなく、すべての研究が本レビューから除外された。ただ、我々が全文コピーを入手できなかったため、1つの研究は分類が待たれている。進行中のものでは3つの試験が検索されたが、うち2つは予定された参加人数を集める前に試験が中止されていた。残り1つの研究では、吸収性の治療群が非常に複雑であるため、試験が中止されていた。

**レビューアの結論:** 本レビューにより、評価基準を満たすランダム化比較試験の論文がないことが明らかとなった。現在のところ、顔面骨折に対し、従来のチタンによるシステムと比べて、吸収性材料による固定システムの有効性に関するエビデンスは不十分である。中止された試験の結果に基づくと、本レビューの結果は、吸収性プレートがチタンプレートと同じくらい有効であるとは示唆できない。今後、現在進行中の臨床試験の結果が、臨床医と患者の意志決定を補助する信頼性の高いエビデンスを提供するかもしれない。試験を行うものは、研究に定義された目的や目標に合致するように、正確かつ包括的に研究を設計するべきである。

(翻訳 金高弘恭・監訳 湯浅秀道; JCOHR)

翻訳公開日: 09年5月13日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。